

第一回プレコンセプションケア等に係る有識者ヒアリング概要

第一回プレコンセプションケア等に係る有識者ヒアリングにおける各参加者の発言の要点は以下のとおり。

① 公益社団法人日本助産師会 副会長 安達久美子さん

- ・ 各都道府県の助産師会で就学前から高校生までの子どもたち、そして保護者に健康教育を行っている。また、大学生や社会人の女性に対しても講演や個別相談を行っている。
- ・ 健康教育によって、小学生は自分の心と体が過去から受け継がれ、未来につながるものと感じ、高校生は将来の妊娠出産について考えるようになる。
- ・ 健康教育は教育機関等からの要請に基づき行われることが多いが、地域格差があり、健康教育の認知度を高めることが必要。
- ・ 健康教育は単発で終わるのではなく、継続的に行うことで、性に関する問題や課題について行動変容を促したり、予防につながる事が可能となる。
- ・ 性に関する個別相談ができるような場・機会を確保していくことが必要。

② 国立成育医療センター総合診療部 臨床研究員 阪下和美さん

- ・ 小児期はプレコンセプションケアの基盤を作る時期であり、性・生殖に関する正確な理解を促すことで、自分・相手の性を大切にできるようになる。
- ・ 小児期から①プライベートゾーン、②月経、③避妊の知識、④性的指向・性自認を中心に伝えていくことが重要。
- ・ 小児期から悩みがあってもなくても医療機関を受診し、プライベートな空間で相談する機会を作っていくことが必要。医療者に何かを話すことに慣れてもらうことが大切。特に思春期には、心身の健康の評価及び性に関して医療者へ相談する機会としての「思春期健診」が必要。
- ・ 「次世代ヘルスプロモーションプロジェクト」という名称で、公式 HP からプレコンセプションケアの情報発信をしたり、保健所や医療機関、関係団体が協力して相談事業が行えるようにするのがいいのではないかと。特に個別相談の場として医療機関を利用する体制確立が必要。

(注)「次世代」とはプロジェクトの対象とする子どもの「次の世代」を意図。

③ 学校法人桐朋学園 桐朋小学校教諭 星野俊樹さん

- ・ 小学校で包括的性教育を実践しているが、低学年で既に固定的な「男らしさ」「女らしさ」の強制に居心地の悪さを感じている児童が少なからず存在することに気がついた。
- ・ プレコンセプションケアの充実のためには、⑦女性が固定的なジェンダーに縛られず、ライフプランを主体的に選ぶことと、⑧プレコンセプションケアについて当事者意識をもつ男性を育てることが必要。そのために幼少期からのジェンダー教育が必要。
- ・ 子どもから話を聞くと、家庭では同性の親がジェンダーバイアスを強化するしつけをしている傾向にあり、固定的な男・女らしさの強要に抑圧されていると感じている子どもが存在する。
- ・ 学校でジェンダー等の内容を扱ったあとは、子どもの意識が高まり、行動変容する場合もあるので、保護者には、その内容の共有と子どもへの対応を周知する手紙を配布している。

2021（令和3）年5月20日

プレコンセプションケア等に係る有識者ヒアリング
（第1回）

大隈政務官冒頭挨拶要旨

- この度はご参集いただきありがとうございます。
- 令和3年2月9日に閣議決定された「成育医療等基本方針」には、「男女を問わず、相談支援や健診等を通じ、将来の妊娠のための健康管理に関する情報提供を推進するなど、プレコンセプションケア（※）に関する体制整備を図る」ことが記載されています。

※「女性やカップルを対象として、将来の妊娠のための健康管理を促す取組」

- そのため、厚生労働省においては、
 - ・ 性・生殖に関する正しい科学的知見の普及や、
 - ・ 学校・家庭以外での性に関する相談の場の提供等を行う体制整備を検討しております。
- 今回のヒアリングでは、有識者のみなさまに、
 - ・ プレコンセプションケアを求めているのはどのような人達か
 - ・ どのような内容の情報提供や相談支援を行えば良いか、
 - ・ どのような手法でアプローチするのが適切か等に関してご意見を伺い、今後の検討に活かしてまいりたいと考えています。ぜひ、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

2021（令和3）年5月20日

プレコンセプションケア等に係る有識者ヒアリング
（第1回）

渡辺子ども家庭局長閉会挨拶要旨

- この度は、みなさまのご知見等に基づく様々なご意見をいただき、ありがとうございます。
- 「成育医療等基本方針」においては、プレコンセプションケアは、「女性やカップルを対象として将来の妊娠のための健康管理を促す取組」と定義されていますが、多義的な概念であると認識しております。
- 本日のヒアリングでは、
 - ・ 現在のプレコンセプションケアの現状そして課題
 - ・ 幼い頃からの性や生殖に関する正しい科学的知見の教育の重要性
 - ・ 性・ジェンダーに関する相談の場の必要性などについて、貴重なお話を伺うことができました。
- 厚生労働省としては、本日いただいたご意見も踏まえ、プレコンセプションケアの体制整備に係る検討をより一層進めてまいりたいと考えています。